

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-236780

(P2000-236780A)

(43) 公開日 平成12年9月5日(2000.9.5)

(51) IntCl'

A 01 K 85/00

識別記号

3 0 1

F I

A 01 K 85/00

キーワード(参考)

3 0 1 Z 2 B 1 0 7

審査請求 未請求 請求項の数 5 書面 (全 15 頁)

(21) 出願番号

特願平11-84449

(22) 出願日

平成11年2月22日(1999.2.22)

(71) 出願人 000148335

株式会社浅利研究所

青森県八戸市大字湊町字大沢46番地10

(72) 発明者 浅利 潜

青森県八戸市新井田字小久保尻24-3

(74) 代理人 100068652

弁理士 光藤 寛

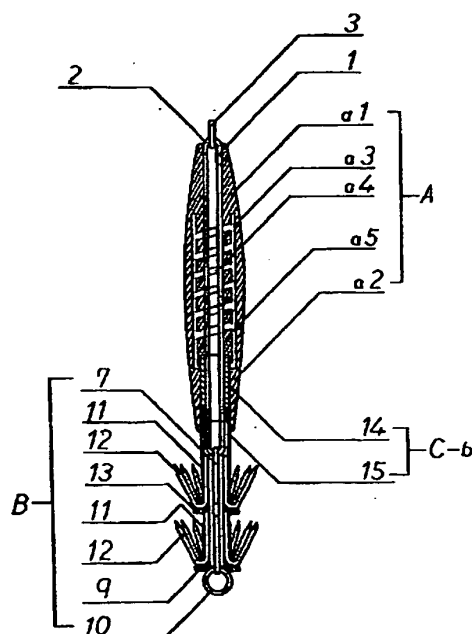
Fターム(参考) 2B107 BA14 BA18 BA22

(54) 【発明の名称】 いか釣針の擬餌体及びその擬餌体を用いたいか釣針

(57) 【要約】

【課題】 いかの機械釣りは、撈取ドラムに釣糸と多数のいか釣針とを撈取ったり撈きもどしたりして作業をするものであるが、従来の螺旋発条から成る擬餌体の場合に、その撈取り撈きもどし作業中、擬餌体と釣糸が絡み合い作業を中断して修復作業をしなければならない課題があった。又、螺旋発条の擬餌体では光の透過性と反射性が悪くいかに目に付きにくい課題もあった。

【解決手段】 本発明は、螺旋発条a5の擬餌体Aに対し、その周辺に柱部a3を設ける手段によって擬餌体Aと釣糸の絡み合いを防止した。又、螺旋発条a5と柱部a3とに隙間を設けることによって光の透孔もあり螺旋発条a5を透明、又は、半透明の材質とする手段によって、いかに目立つ擬餌体として光の反射問題を解決した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 合成樹脂から成る上端筒部a1と、下端筒部a2とを合成樹脂から成る複数の柱部a3で連結して中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に前記上端筒部a1の下端より同一体に合成樹脂から成る螺旋発条a5を垂下せしめて成るいか釣針の擬餌体。

【請求項2】 合成樹脂から成る上端筒部a1と、下端筒部a2とを合成樹脂から成る複数の柱部a3で連結して中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に合成樹脂から成る螺旋発条a5を挿入して成るいか釣針の擬餌体。

【請求項3】 合成樹脂から成る上端筒部a1と、下端筒部a2とを合成樹脂から成る複数の柱部a3で連結して中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に前記上端筒部a1の下端より同一体に合成樹脂から成る螺旋発条a5を垂下せしめて擬餌体Aを構成せしめ、その擬餌体の下端筒部a2と螺旋発条a5と上端筒部a1との中心部を介して傘状釣針部Bを下端に備えた連結杆1を挿通せしめると共に、その傘状釣針部の上端を螺旋発条a5の下端に添着せしめて圧縮伸長自在になし、且、前記連結杆1の係止鉤2に上部止環3を着脱自在に係止して成るいか釣針。

【請求項4】 合成樹脂から成る上端筒部a1と、下端筒部a2とを合成樹脂から成る複数の柱部a3で連結して中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に前記上端筒部a1の下端より同一体に合成樹脂から成る螺旋発条a5を垂下せしめて擬餌体Aを構成し、その擬餌体の下端筒部a2内に支承筒体C-bの上部を挿入すると共に螺旋発条a5の下端に添着し、且、支承筒体C-bと下端筒部a2と螺旋発条a5と上端筒部a1の中心部を介して連結杆1を挿通せしめ、その連結杆の係止鉤2に上部止環3を着脱自在に係止すると共に、下部の釣針付け用芯杆連結部4を、支承筒体C-bと傘状釣針部Bとの接する部分に位置して、その傘状釣針部の連結杆引掛鉤部5に折曲自在に連結し、且又、前記支承筒体C-bの下端凹部b1と傘状釣針部Bの上端凸部b2とを嵌着脱離自在にして成るいか釣針。

【請求項5】 合成樹脂から成る上端筒部a1と、下端筒部a2とを合成樹脂から成る複数の柱部a3で連結して中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に前記上端筒部a1の下端より同一体に合成樹脂から成る螺旋発条a5を垂下せしめて擬餌体Aを構成し、その擬餌体の下端筒部a2内に上部支承筒c1の上部を挿入し、その上部支承筒の下端雄部e1には下部支承筒c2の上端雄部e2を嵌着脱離自在に嵌合せしめて支承筒本体Cを形成せしめ、且、その支承筒本体と下端筒部a2と螺旋発条a5と上端筒部a1との各中心部を介して連結杆1を挿通し、且又、その連結杆の係止鉤2に上部止環3を着脱自在に係止すると共に、下部の釣針付け用芯杆連結部4を、上部支承筒c1と下部支承筒c2との嵌合部に

位置して、傘状釣針部Bの連結杆引掛鉤部5に折曲自在に連結して成るいか釣針。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、いかの手釣り用と機械釣り用の擬餌体といか釣針に関する。

【0002】

【従来の技術】 通常、いか手釣り用いか釣針は主として、擬餌体と傘状釣針とから成るか、又は、擬餌体と弾性体と支承筒と傘状釣針の部品等からなるものである。且又、いかの機械釣りにおいてもほぼ上記手釣り用いか釣針と同じ構成から成り立っているものである。その代表的な先行技術文献として実公昭58-14866号（以下第一先行技術と略称する）。公報が挙げられる。

【0003】又、上記第一先行技術を改良する技術文献として実公昭53-36949号、実公昭57-12832号並びに実公昭59-12061号（以下第二先行技術群と略称する）。公報があるがそれを要約して説明すれば、擬餌体を螺旋状にして擬餌体自身に弾性体と支承筒の作用をもたせ、機械釣りにおけるローラ等に対しても擬餌体自身が屈曲する技術を開示している。

【0004】更に、その第二先行技術群の螺旋状の擬餌体を改良、螺旋状の擬餌体にかえ竹の子バネ状にした先行技術文献がある。その文献は実公昭61-24065号（以下第三先行技術と略称する）。公報である。

【0005】加えて、いかの機械釣りは釣船から集魚灯を海中に投光して釣るものであるが、その光は船舷より外側部分を照らし、船の下側部分の海中には入らず、従って船の下側部分は暗い。その暗い部分に主として、いか釣り用仕掛けは船上より降され、いかは擬餌体が見きわめにくいものであった。その見きわめにくい状態を解消すべく、擬餌体の一側面より他側面に光が透過するように透孔を設け、擬餌体が暗い部分に位置していてもその存在を反対側から透過する光によって知らされ好収穫を得ている先行技術文献がある。その代表的な技術文献は、実公昭60-26625号（以下第四先行技術と略称する）。公報である。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 さて、先行技術の課題があるが、まず、第一先行技術は擬餌体と弾性体が別部品であるから製造に手数を要する課題（以下第一課題と略称する）。があり、同時に組立分解にも手数を必要とする課題（以下第二課題と略称する）。もある。加えて、擬餌体に光透過孔がないため海中あつていかに目立つ擬餌となり得ない課題（以下第三課題と略称する）。があり、又、いかがいかに釣針に抱付いたとき支承筒と傘状釣針との部分で折曲し、いかは傘状釣針に完全にかからず取落す課題（以下第四課題と略称する）。がある。

【0007】次に、第二先行技術であるがこれは擬餌体

を螺旋状としているため弾性体も支承筒も必要としないものであるが、機械釣りにおける捲取りドラムに釣糸といか釣針を捲取ると、そのいか釣針の擬餌体が螺旋状であるため、その螺旋間に釣糸が入り込み絡み合い釣漁ができない課題（以下第五課題と略称する）。があり、従って機械釣りに不向きないか釣針である。しかも擬餌体に必ずしも横方向の光透過でないで海中にあっていかに目立つ擬餌となり得ない第三課題もあり、加えて、擬餌体が螺旋状で曲がりやすく、又、擬餌体と傘状釣針とは直接に接しているため容易にその部分も折曲しやすく、従って、いかがいかに釣針に抱付いたとき、全体的に折曲しやすいためであるから、いかがいかに釣針にかかりにくく取落す第四課題もある。

【0008】更に、第三先行技術は擬餌体を竹の子バナネ状としているものであるが、擬餌体を竹の子バナネ状であるから弾力があり、弾性体と支承筒を必要としないが竹の子の上部が機械釣りのとき、そのガイドローラに突き当たり、全体が伸縮してしまい分解する課題と竹の子状に着いた最後の部分が露出しているため、捲取ドラムに釣糸といか釣針とを捲取るとき、その最後の部分に釣糸が絡み、これも釣漁ができなくなる第五課題がある。加えて、擬餌体が竹の子バナネで容易に曲がりやすく、又、擬餌体と傘状釣針とは直接に接しているためその部分でも折曲し、従っていか釣針にいかがいかに抱付いたとき、全体的に折曲しやすいためであるからいかがいかに釣針に係りにくく取落す第四課題もある。しかも擬餌体は単純な竹の子バナネ状物だから光透過がなく、海中にあっていかに目立つ擬餌となり得ない第三課題もある。

【0009】且又、第四先行技術は擬餌体に一側面より他側面に光が透過する透孔を設けたことを特徴とする技術であるが、他は従来技術のいか釣針とは同じで、擬餌体とバックリング（弾性体）とが別部品であるから製造に手数を必要とする第二課題がある。又、バックリングは弾性体例えばゴム製であるはずであって、それでは弾性体がいかに喰いつぶされたり、老化したり破損する課題（以下第六課題と略称する）。が生じるものであり、このバックリングが硬質材であるとすればいか釣針全体が棒状となり、機械釣りのいか釣針としてガイドローラに馴染まず用いることがほとんど不可能になる課題があることになる。従って、バックリングがゴム製等軟質材であれば、そのバックリングのところで折曲するものであるが、これでは、いかがいかに釣針に抱付いたとき、やはり、そのバックリングのところで折曲し、いかがいかに釣針に完全にかからず取落す第四課題もあるものである。

【0010】

【課題を解決するための手段】 上記、従来技術の課題を解決するために、本発明中請求項1乃至2に示す手段を用い、まず第一課題解決には合成樹脂の成形機である射出成形機等の加工機を用い、加熱流動性になる合成樹脂をもって螺旋発条とその他の擬餌部分とを同時成形

し、螺旋発条とその他の擬餌部分を一工程で一部品になさしめ擬餌体を完成して第一課題を完成している。

【0011】又、第二課題についても上記同様に、本発明中請求項1乃至2に示す手段で課題を解決するもので、組立分解作業時に両手を使って弾性体と擬餌体とを別々に持つ必要があったが、本発明は擬餌体のどの部分でも片手で持つことにより、弾性体である螺旋発条はついてくるので両手を使用することなく、組立分解作業が容易となり、第二課題も解決した。

10 【0012】且又、本発明は第三課題については、上端筒部と下端筒部とを複数の柱部で連結し、中心中央に空室を形成し、その空室に螺旋発条のみを位置するため、空室と螺旋発条は隣り合わせのものであるから自然に光透過孔が生じ、いかに目立つ擬餌となり第三課題も解決している。

【0013】第四課題については、本発明中請求項4乃至5のいか釣針として解決している。具体的には、まず、その1は、支承筒体の下端凹部と傘状釣針部の上端凸部とを嵌着脱離自在にし、且、その下端凹部と上端凸部との嵌合部分に位置せしめて、連結杆の釣針付け用芯杆連結部と傘状釣針部の連結杆引掛鉤部とを折曲自在に連結することにより、いかがいかに釣針に抱付くことに対しては折り曲がらず、機械釣りにおいては、ガイドローラに馴染んで折り曲がるもので第四課題も解決している。その2は支承筒本体を中央で二分割して上部支承筒と下部支承筒を構成せしめ、その上部支承筒の下部には下端雄部を設け、下部支承筒には上端雄部を設けて、その上端雄部を下端雄部に嵌着脱離自在に嵌合し、且、その嵌合部に位置して、連結杆の釣針付け用芯杆連結部と傘状釣針部の連結杆引掛鉤部とを折曲自在に連結して、いかがいかに釣針に抱付いても折り曲がらず、機械釣りにおけるガイドローラには馴染んで折り曲がるもので、これまた第四課題を解決しているものである。

【0014】次に、釣糸と擬餌体等が絡む第五課題であるが、本発明は擬餌体に螺旋発条が存在するとは言え、その螺旋外側に位置して複数の柱部を設け、この柱部によって螺旋発条には釣糸が入る余地ない手段をとるため、擬餌体と釣糸が絡むことのない第五課題も解決している。

40 【0015】更に、第六課題のバックリングを用いている点であるが弾性体であり、その材料はゴム又はそれに近いものであり、従って、いかに喰いつぶされたり老化したりする欠点があるが本発明は螺旋発条とし、その材料を合成樹脂で硬質材とする手段をとるため第六課題も解決している。

【0016】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の実施の形態を図面を参照しながら説明する。まず縦断正面図である図1とその分解図である図2は本発明の請求項1の実施の形態を示すものである。その具体的な発明を説明するに、

合成樹脂から成る上端筒部a1と下端筒部a2とを、合成樹脂から成る複数個の柱部a3で連設して中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に前記上端筒部a1の下端より、同一体に合成樹脂から成る螺旋発条a5を垂下せしめて成るいか釣針の擬倒体である。加えて、螺旋発条a5の伸縮性を良くするために実際の実施の形態においては、傘状釣針部Bの上端と螺旋発条a5の間に支承筒C-aを介在されるものである。

【0017】その製造方法は、合成樹脂を用いるもので、その合成樹脂は熱可塑性でプラスチックで例えばポリカーボネートであり、熱硬化性樹脂では例えば尿素樹脂であってもよい。これら合成樹脂に希望の着色剤等を配合し、8本取り程度の射出成形で螺旋発条a5を含む全体を合成樹脂とし、請求項1の発明であるいか釣針の擬倒体を作るのである。

【0018】次に、本発明中の請求項2は図17乃至20に示す通り、合成樹脂から成る上端筒部a1と下端筒部a2とを合成樹脂から成る複数個の柱部a3で連設して中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に合成樹脂から成る螺旋発条a5を挿入して成るいか釣針の擬倒体で、図面においては螺旋発条a5の伸縮作用性を良くするために、傘状釣針部Bの上端と螺旋発条a5との間に支承筒体C-bを介在させているものである。その支承筒体は、二つの部品から成り一つは合成樹脂製上筒14他は金属製下筒15で、それぞれその合成樹脂製上筒には雄部e3を突設せしめ、且、その雄部を金属製下筒の雌部e4に挿入して一体としたものである。

【0019】その請求項2の発明についての製造方法は、先の請求項1の発明と同様に主に材料は合成樹脂を用いる。一例として熱可塑性プラスチックであればポリカーボネートを用い、熱硬化性樹脂であれば尿素樹脂を用いればよく、これら合成樹脂に希望の着色剤を配合し、8本取り程度の射出成形機で螺旋発条a5を含む全体を同一合成樹脂で成形するのであるが、螺旋発条a5を独立部品とするため、上端筒部a1の下端から下端筒部a2の上端か、もしくは双方に螺旋発条a5の成形に必要な湯道を作って螺旋発条a5を他の部分と同時に一体に合成樹脂で製造するものである。湯道に残った合成樹脂を取り除けば螺旋発条a5は独立部品となる。

【0020】次に、本発明中の請求項3に付いての実施の形態を説明すれば、図面は図1乃至図2に示してある。その要旨とするところは合成樹脂から成る上端筒部a1と下端筒部a2とを合成樹脂から成る複数個の柱部a3で連設して中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に前記上端筒部a1の下端より同一体に合成樹脂から成る螺旋発条a5を垂下せしめて擬倒体Aを構成せしめ、その擬倒体の下端筒部a2と螺旋発条a5と上端筒部a1との中心中央を介して傘状釣針部Bを下端に備えた連結杆1を挿通せしめると共に、その傘状釣針部の上端を螺旋発条a5の下端に添着せしめて圧縮伸長自在に

なし、且、前記連結杆1の係止鉤2に上部止環3を着脱自在に係止して成るいか釣針であり、又、連結杆1の成形は針金をU字状に折曲し、下部に釣針付け用芯杆連結部4を構成せしめると共に、上端には両端を内側に丸く曲げて係止鉤2を形成せしめる。且又、傘状釣針部Bは芯軸6の溝部に釣針付け用芯杆7をローマ文字のC状に巻き付け、上部に連結杆引掛鉤部5を形成し、下部は下部止環受部8とし、その下部止環受部には座金9を介して下部止環10に係合すると共に、釣針付け用芯杆7の上端より固定リング11に結束された傘状釣針12を、補助座金13を介して二段又は必要によっては三段に挿入して構成して成るものである。

【0021】更に、本発明中の請求項4についてその実施の形態を説明する図面について示せば図3乃至9である。その発明の要旨は、合成樹脂から成る上端筒部a1と下端筒部a2とを合成樹脂から成る複数個の柱部a3で連設して中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に前記上端筒部a1の下端より同一体に合成樹脂から成る螺旋発条a5を垂下せしめて擬倒体Aを構成し、その擬倒体の下端筒部a2内に支承筒体C-bの上部を挿入すると共に螺旋発条a5の下端に添着し、且、支承筒体C-bと下端筒部a2と螺旋発条a5と上端筒部a1の中心部を介して連結杆1を挿通せしめ、その連結杆の係止鉤2に上部止環3を着脱自在に係止すると共に、下部の釣針付け用芯杆連結部4を支承筒体C-bと傘状釣針部Bとの接する部分に位置して、その傘状釣針部の連結杆引掛鉤部5に折曲自在に連結し、且又、前記支承筒体C-bの下端凹部b1と傘状釣針部Bの上端凸部b2とを嵌着脱離自在にして成るいか釣針である。且、前記支承筒体C-bは支承筒C-aを用いてもよく、この場合も支承筒C-aの下部を傘状釣針部Bの上端凸部b2に嵌着脱離自在にして使用すればよい。

【0022】加えて、本発明中の請求項5における発明の実施の形態は図10乃至17に示すものであり、その要旨は合成樹脂から成る上端筒部a1と下端筒部a2とを合成樹脂から成る複数個の柱部a3で連設して中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に前記上端筒部a1の下端より同一体に合成樹脂から成る螺旋発条a5を垂下せしめて擬倒体Aを構成し、その擬倒体の下端筒部a2内に上部支承筒c1の上部を挿入し、その上部支承筒の下端雄部e1には下部支承筒c2の上部雌部e2を嵌着脱離自在に嵌合せしめて支承筒本体Cを形成せしめ、且、その支承筒本体と下端筒部a2と螺旋発条a5と上端筒部a1との各中心部を介して連結杆1を挿通し、且又、その連結杆の係止鉤2に上部止環3を着脱自在に係止すると共に、下部の釣針付け用芯杆連結部4を上部支承筒c1と下部支承筒c2との嵌合部に位置して、傘状釣針部Bの連結杆引掛鉤部5に折曲自在に連結して成るいか釣針である。

【0023】本発明における、請求項3乃至5の発明に

関するいか釣針についての組立分解は、請求項4の発明を利用して説明すれば、まず、組立について傘状釣針12を備えた傘状釣針部Bの連結杆引掛鉤部5に支承筒体C-bを挿通した連結杆1の釣針付け用芯杆連結部4に係合せしめて傘状釣針部Bを備えた連結杆1を用意し、この連結杆において、その上端にある係止鉤2を先として擬餌体Aの下端筒部a2螺旋発条a5上端筒部a1の中心中央に挿入し、次に図4に示すように傘状釣針部Bを擬餌体Aに対して押圧し、支承筒体C-bを介して螺旋発条a5を圧縮し、係止鉤2を上端筒部a1の頂面より突出し、その突出した係止鉤に上部止環3を掛け止めし、傘状釣針部Bの押圧をとけば図3に示すような状態になって組立て作業は完成する。

【0024】加えて、分解について説明するに、これは組立と反対の作業となり、図3に示すような状態から図4に示すように傘状釣針部Bを押圧して、連結杆1の係止鉤2を擬餌体Aの上端筒部a1より突出すると共に、その突出された係止鉤2から上部止環3を外し、しかる後、擬餌体Aから傘状釣針部Bを引張って連結杆1を引抜けば分解作業は完了するものである。

【0025】

【実施例】 本発明の、実施例を図面に基いて説明すると、まず実施例Iは図1乃至2であり、これは請求項1の発明の実施例であると共に請求項3の発明の実施例で、その説明をするに、合成樹脂から成る上端筒部a1と下端筒部a2とを左右両側に位置せしめた合成樹脂から成る二本の柱部a3で連設して、中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に前記上端筒部a1の下端より同一体に合成樹脂から成る螺旋発条a5を垂下せしめた擬餌体Aにおいて、その擬餌体の下端筒部a2と螺旋発条a5と上端筒部a1との中心部を介して傘状釣針部Bと支承筒C-aとを備えた連結杆1を挿通せしめると共に、その支承筒の上端を螺旋発条a5の下端に添着せしめて圧縮伸長自在となし、且、前記連結杆1の上端に位置する係止鉤2に上部止環3を着脱自在に係止して成るいか釣針である。

【0026】次に、実施例IIについて図3乃至9をもって説明するに、これは請求項1の発明の実施例であると共に、請求項4の発明にも関する実施例で、詳しくは合成樹脂から成る上端筒部a1と下端筒部a2とを左右両側に位置せしめた合成樹脂から成る二本の柱部a3で連設して、中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に前記上端筒部a1の下端より同一体に合成樹脂から成る螺旋発条a5を垂下せしめた擬餌体Aにおいて、その擬餌体の下端筒部a2内に、合成樹脂製上筒14と金属製下筒15とを合体して成る支承筒体C-bの上部を挿入すると共に、螺旋発条a5の下端に添着し、且、支承筒体C-bと下端筒部a2と螺旋発条a5と上端筒部a1の中心部を介して連結杆1を挿通せしめ、その連結杆の係止鉤2に上部止環3を着脱自在に係止すると共に、

下部の釣針付け用芯杆連結部4を支承筒体C-bと傘状釣針部Bとの接する部分に位置して、その傘状釣針部の連結杆引掛鉤部5に折曲自在に連結し、且又、前記支承筒体C-bの下端凹部b1と傘状釣針部Bの上端凸部b2とを嵌着脱離自在にしたいか釣針の実施例である。

【0027】重ねて、実施例IIIについては図10乃至16をもって説明するに、これは請求項1の発明の実施例であり、請求項5の発明の実施例でもある。それは、合成樹脂から成る上端筒部a1と下端筒部a2とを、左右両側に位置せしめた二本の合成樹脂から成る柱部a3で連設して、中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に前記上端筒部a1の下端より、同一体に合成樹脂から成る螺旋発条a5を垂下せしめた擬餌体Aにおいて、その擬餌体の下端筒部a2内に上部支承筒c1の上部を挿入し、その上部支承筒の下端雄部e1には下部支承筒c2の上端雄部e2を嵌着脱離自在に嵌合せしめて支承筒本体Cを形成せしめ、且、その支承筒本体と下端筒部a2と螺旋発条a5と上端筒部a1との各中心部を介して連結杆1を挿通し、且又、その連結杆の係止鉤2に上部止環3を着脱自在に係止すると共に、下部の釣針付け用芯杆連結部4を上部支承筒c1と下部支承筒c2の嵌合部に位置して、傘状釣針部Bの連結杆引掛鉤部5に折曲自在に連結したいか釣針の実施例である。

【0028】加えて、実施例IVについては図17乃至20をもって説明するに、これは本発明中の請求項2の実施例である。それを説明すれば合成樹脂から成る上端筒部a1と下端筒部a2とを、左右両側に位置して二本の合成樹脂から成る柱部a3で連設して中心中央に空室a4を形成せしめ、その空室に合成樹脂から成る螺旋発条a5を出入れ自在に挿入した擬餌体Aにおいて、その擬餌体の下端筒部a2内に、合成樹脂製上筒14と金属製下筒とを合体して成る支承筒体C-bの上部を挿入すると共に、螺旋発条a5の下端に添着し、且、支承筒体C-bと下端筒部a2と螺旋発条a5と上端筒部a1の中心部を介して連結杆1を挿通せしめ、その連結杆の係止鉤2に上部止環3を着脱自在に係止すると共に、釣針付け用芯杆連結部4を、支承筒体C-bと傘状釣針部Bとの接する部分に位置して、その傘状釣針部の連結杆引掛鉤部5に折曲自在に連結し、且又、前記支承筒体C-bの下端凹部b1と傘状釣針部Bの上端凸部b2とを嵌着脱離自在にしたいか釣針の実施例である。

【0029】従って、実施例Iに示すいか釣針は手釣り用いか釣針を対象としているため、擬餌体Aと傘状釣針部Bと支承筒C-aの、いずれでも折り曲がる必要がないが、実施例IIとIVのいか釣針は、機械釣りを対象としているために、いか釣針のどこかで折曲せしめて容易にガイドローラ16に馴染む構造とする必要がある。その実施例IIとIVのいか釣針は、支承筒体C-bの下端凹部b1と傘状釣針部Bの上端凸部b2とを嵌着脱離自在にしたので、数拾本のいか釣針をつなぎ、且、最

終末端に錘を備えた仕掛を撈取ドラムで撈上げたとき、ガイドローラに対し、いか釣針は下端凹部b1と上端凸部b2のところで引く力が強いので、簡単に折り曲ってガイドローラに馴染み、いか釣針が破損することがなく、それでありながら下端凹部b1と上端凸部b2は嵌合されているため、いかの抱付き力程度では折り曲がらず、いかがいかに釣針に抱付けばいか釣針は直線状であるため、傘状釣針12に引掛けやすく、取逃がさない構造のものとなっている。

【0030】又、実施例II Iのいか釣針は上部支承筒c1に下部雄部e1を設け、且、下部支承筒c2には上端雄部e2を突設して、その上端雄部と下端雄部e1とを嵌着脱離自在に嵌合して支承筒本体Cを構成しているため、前記した実施例II IとIVと同様の仕掛を撈取ドラムで撈上げたとき、ガイドローラに対し、いか釣針は下端雄部e1と上端雄部e2のところで、引く力が強いので、簡単に折り曲がってガイドローラに馴染み、いか釣針が破損することがなくそれでありながら下端雄部e1と上端雄部e2は嵌合されているため、いかの抱付き力程度では折り曲がらず、いかがいかに釣針に抱付けばいか釣針は直線状であるために、傘状釣針12に引掛けやすく、取逃がしがない構造のものとなっている。

【0031】

【発明の効果】 本発明中の請求項1の発明は、合成樹脂から成る上端筒部と下端筒部とを合成樹脂から成る複数の柱部で連結して中心中央に空室を形成せしめ、その空室に前記上端筒部の下端より、同一体に合成樹脂から成る螺旋発条を垂下せしめて成るいか釣針の擬餌体であるので、総ての部分が合成樹脂を材料とするものである。従って射出成形機等の一工程で、螺旋発条まで加えた擬餌体が出来あがり、製作に手数を要しない効果を有し、加えて擬餌体自身に螺旋発条が同一体に構成されているため、従来のように螺旋発条と擬餌体とを別々に持つて組立分解する必要がなく、片手で組立分解作業ができて作業が容易である効果もある。又、擬餌体に螺旋発条が同一体に作られていても、その外周左右両側に柱部を備えているため、その柱部によって機械釣りにおける撈取ドラムに釣糸といかに釣針とが、撈取られ撈きもどし時に釣糸といかに釣針が絡み合うことなく、機械釣りの作業性もよい効果を有する。更に、螺旋発条が中心中央に位置し、且、外周左右両側に柱部が位置するのみであるから両者間に隙間が出来て、その隙間が光の透孔の作用をして目立つ擬餌体となり、しかも螺旋とは傾斜形状であるから、合成樹脂に透明又は半透明の材料を用いればプリズム状となり、一種独特の光を発生し透孔作用とあいまって、更に、いかに目立つ擬餌体となる効果をも有するいか釣針の擬餌体である。

【0032】次に、本発明中の請求項2の発明は合成樹脂から成る上端筒部と下端筒部とを合成樹脂から成る複数の柱部で連結して中心中央に空室を形成せしめ、そ

の空室に合成樹脂から成る螺旋発条を挿入して成るいか釣針の擬餌体で請求項1の発明に効果に加えて空室に螺旋発条の出入ができるため、螺旋発条を別に作ることも可能で、この場合には上端筒部と下端筒部と柱部の着色と違った異色の螺旋発条を用いることができる。従って、請求項1の発明よりも更にいかの好む擬餌体とすることが可能な特有の効果を備えるものである。

【0033】本発明中の請求項3の発明は、合成樹脂から成る上端筒部と下端筒部とを合成樹脂から成る複数の柱部で連結して中心中央に空室を形成せしめ、その空室に前記上端筒部の下端より同一体に合成樹脂から成る螺旋発条を垂下せしめて擬餌体を構成せしめ、その擬餌体の下端筒部と螺旋発条と上端筒部との中心中央を介して傘状釣針部を下端に備えた連結杆を挿通せしめると共に、その傘状釣針部の上端を螺旋発条の下端に添着せしめて圧縮伸長自在になし、且、前記連結杆の係止鉤に上部止環を着脱自在に係止して成るいか釣針で、請求項1の発明の効果を具有し手釣り用いか釣針として有益なものである。

【0034】本発明中の請求項4の発明は、合成樹脂から成る上端筒部と下端筒部とを合成樹脂から成る複数の柱部で連結して、中心中央に空室を形成せしめ、その空室に前記上端筒部の下端より、同一体に合成樹脂から成る螺旋発条を垂下せしめて擬餌体Aを構成し、その擬餌体の下端筒部内に、支承筒体の上部を挿入すると共に螺旋発条の下端に添着し、且、支承筒体と下端筒部と螺旋発条と上端筒部の中心部を介して連結杆を挿通せしめ、その連結杆の係止鉤に上部止環を着脱自在に係止すると共に、下部の釣針付け用芯杆連結部を、支承筒体と傘状釣針部との接する部分に位置して、その傘状釣針部の連結杆引掛鉤部に折曲自在に連結し、且又、前記支承筒体の下端凹部と傘状釣針部の上端凸部とを嵌着脱離自在にして成るいか釣針であるから、請求項1の発明と同じ効果を有し、しかも力強く撈取り撈下げるいかの機械釣りにおいて、支承筒体の下端と傘状釣針部の上端凸部とで嵌着脱離自在に嵌合しているため、その部分で折り曲がることなく出来てガイドローラに馴染み、いか釣針が破損することなくそれであって弱い力で抱付くいかにあっては、折り曲がることなく傘状釣針によく刺さり取逃がす危険のない機械釣り用釣針の効果を得られる。加えて、支承筒体が傘状釣針部の上端で折り曲がることは、擬餌体と傘状釣針部の先が離れていることで擬餌体に釣針の先が接しにくく、従って、釣針の先で擬餌体を傷つけることもなく、長期使用に耐えるいか釣針と成る効果がある。更に、支承筒体を金属パイプとすれば、小型いか釣針に向く効果も有するものである。

【0035】本発明中の請求項5の発明は、合成樹脂から成る上端筒部と下端筒部とを合成樹脂から成る複数の柱部で連結して中心中央に空室を形成せしめ、その空室に前記上端筒部の下端より、同一体に合成樹脂から成

る螺旋発条を垂下せしめて擬倒体を構成し、その擬倒体の下端筒部内に上部支承筒の上部を挿入し、その上部支承筒の下端雄部には下部支承筒の上端雄部を嵌着脱離自在に嵌合せしめて支承筒本体を形成せしめ、且、その支承筒本体と下端筒部と螺旋発条と上端筒部との各中心部を介して連結杆を挿通し、且又、その連結杆の係止鉤に上部止環を着脱自在に係止すると共に、下部の釣針付け用芯杆連結部を、上部支承筒と下部支承筒との嵌合部に位置して、傘状釣針部の連結杆引掛鉤部に、折曲自在に連結して成るいか釣針としているので、請求項の発明と同じ効果があり、しかも、力強く撓上げ、撓下げするいかの機械釣りにおいて、上部支承筒の下端雄部と下部支承筒の上端雄部とを嵌着脱離自在に嵌合しているため、その部分で折り曲がることなくガイドローラに馴染み、いか釣針を破損することなく、それであって弱い力で抱付くいかにあつては折り曲がることなく、傘状釣針によく刺さり取逃がす危険のない機械釣り用いか釣針の効果が得られるものである。加えて、上部支承筒の下端雄部と下部支承筒の上端雄部とで、嵌着脱離自在に嵌合する支承筒本体であるから、その材料に合成樹脂が使用できて中型又は大型のいか釣針に向く効果もあるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る請求項1と請求項3の実施例における縦断正面図である。

【図2】 図1の分解縦断正面図である。

【図3】 本発明に係る請求項4におけるいか釣針の実施例でその縦断正面図である。

【図4】 図3に示すいか釣針の組立又は分解の手順を示す縦断正面図である。

【図5】 図3の分解縦断正面図である。

【図6】 図5に示してあるU-U線に沿って切断した横断端面の平面図である。

【図7】 図5に示してあるV-V線に沿って切断した横断端面の平面図である。

【図8】 図5に示してあるW-W線に沿って切断した横断端面の平面図である。

【図9】 図3に示すいか釣針のガイドローラに接した状態に関する縦断正面図である。

【図10】 本発明に係る請求項5のいか釣針の縦断正面図である。

【図11】 図10に示すいか釣針の組立又は分解の手順を示す縦断正面図である。

【図12】 図10に示すいか釣針の分解縦断正面図である。

【図13】 図12に示してあるX-X線に沿って切断した横断端面の平面図である。

【図14】 図12に示してあるY-Y線に沿って切断し

た横断端面の平面図である。

【図15】 図12に示してあるZ-Z線に沿って切断した横断端面に平面図である。

【図16】 図10に示すいか釣針のガイドローラに接した状態に関する縦断正面図である。

【図17】 本発明に係る請求項2の実施例に関する縦断正面図である。

【図18】 図17に示すいか釣針の組立又は分解の手順を示す縦断正面図である。

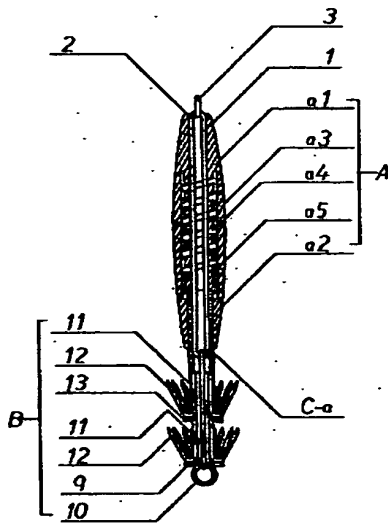
10 【図19】 図17の分解縦断正面図である。

【図20】 図17に示すいか釣針のガイドローラに接した状態に関する縦断正面図である。

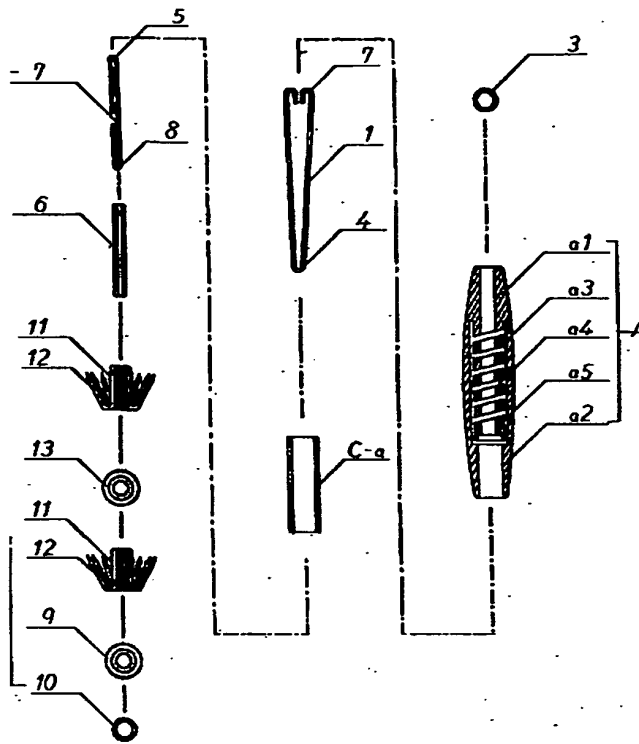
【符号の説明】

- A : 擬倒体
- a1 : 上端筒部
- a2 : 下端筒部
- a3 : 柱部
- a4 : 空室
- a5 : 螺旋発条
- 20 B : 傘状釣針部
- b1 : 下端凹部
- b2 : 上端凸部
- C-a : 支承筒
- C : 支承筒本体
- c1 : 上部支承筒
- c2 : 下部支承筒
- e1 : 下端雄部
- e2 : 上端雄部
- C-b : 支承筒体
- 30 e3 : 雄部
- e4 : 雌部
- 1 : 連結杆
- 2 : 係止鉤
- 3 : 上部止環
- 4 : 釣針付け用芯杆連結部
- 5 : 連結杆引掛鉤部
- 6 : 芯軸
- 7 : 釣針付け用芯杆
- 8 : 下部止環受部
- 40 9 : 座金
- 10 : 下部止環
- 11 : 固定リング
- 12 : 傘状釣針
- 13 : 補助座金
- 14 : 合成樹脂製上筒
- 15 : 金属製下筒
- 16 : ガイドローラ

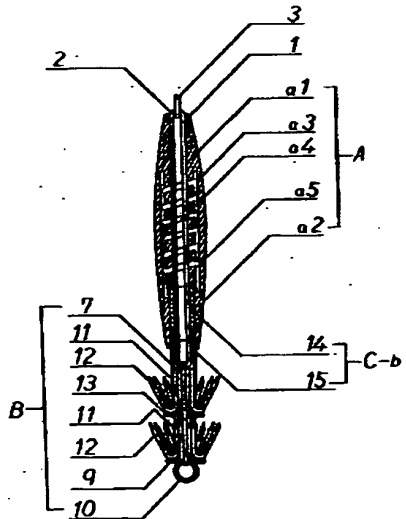
【図 1】



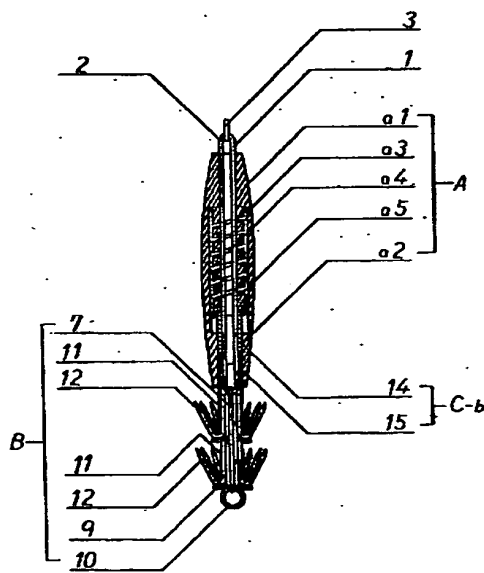
【図 2】



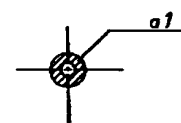
【図 3】



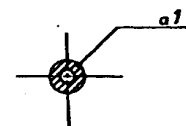
【図 4】



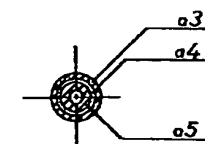
【図 6】



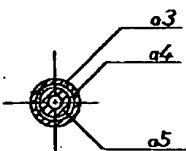
【図 13】



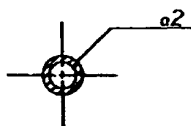
【図 14】



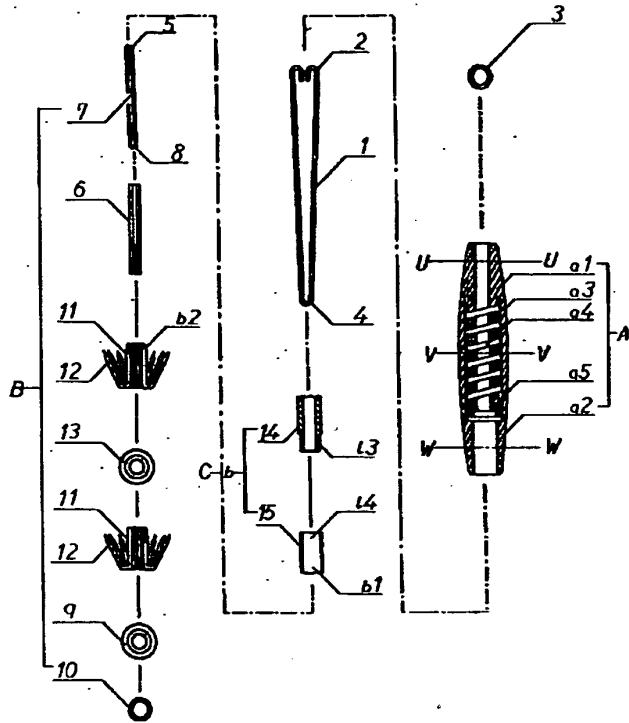
【図 7】



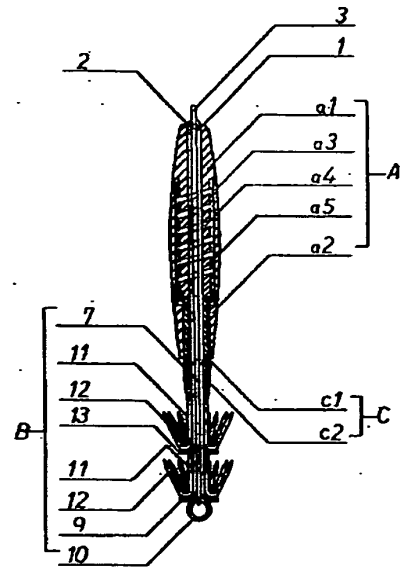
【図 8】



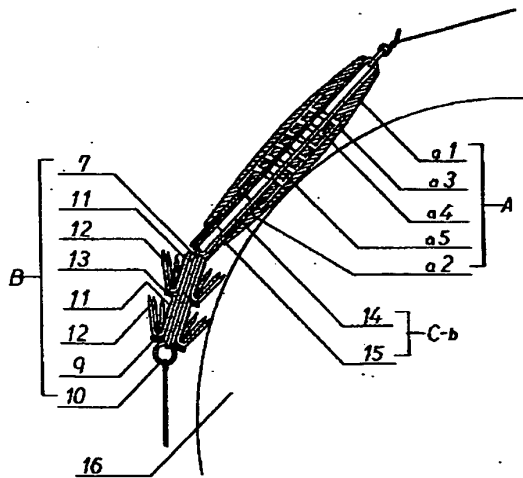
【図 5】



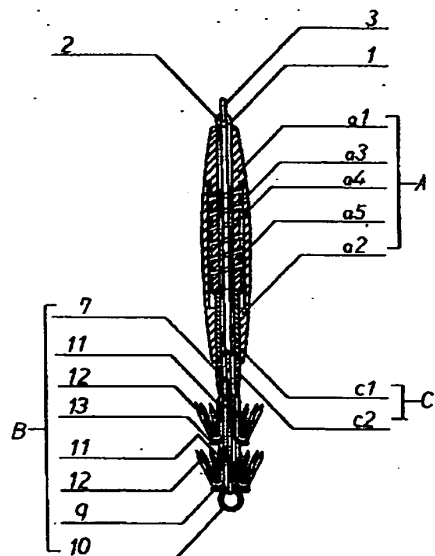
【図10】



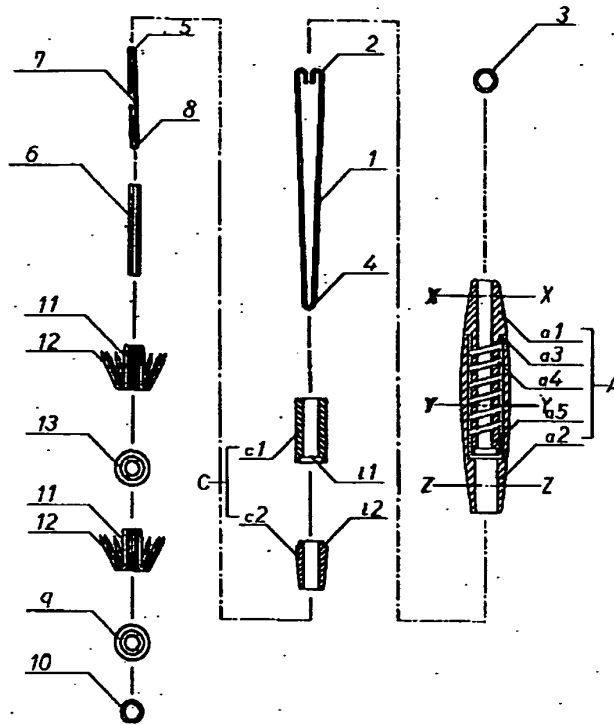
【図 9】



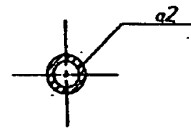
【図11】



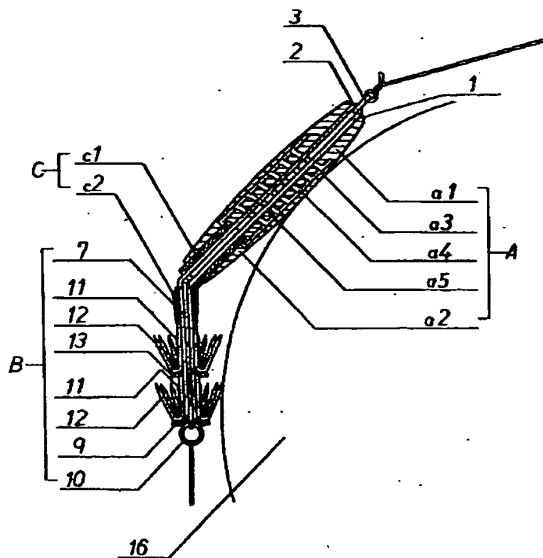
【図12】



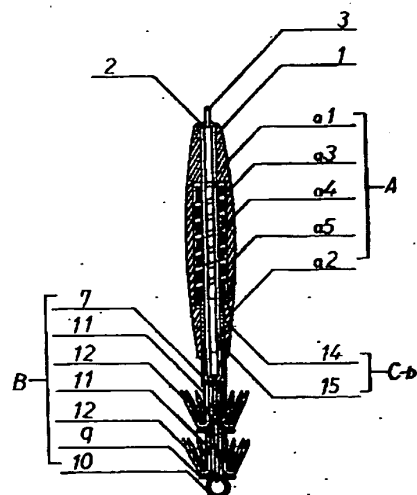
【図15】



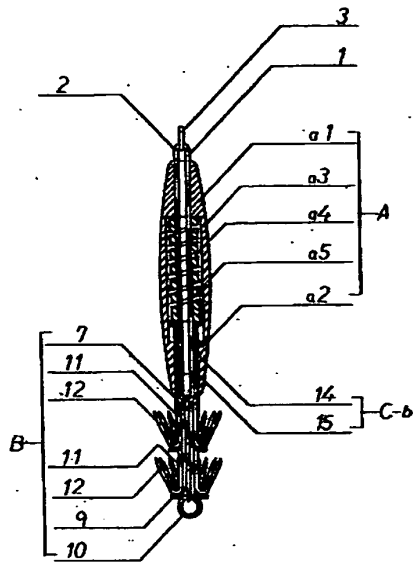
【図16】



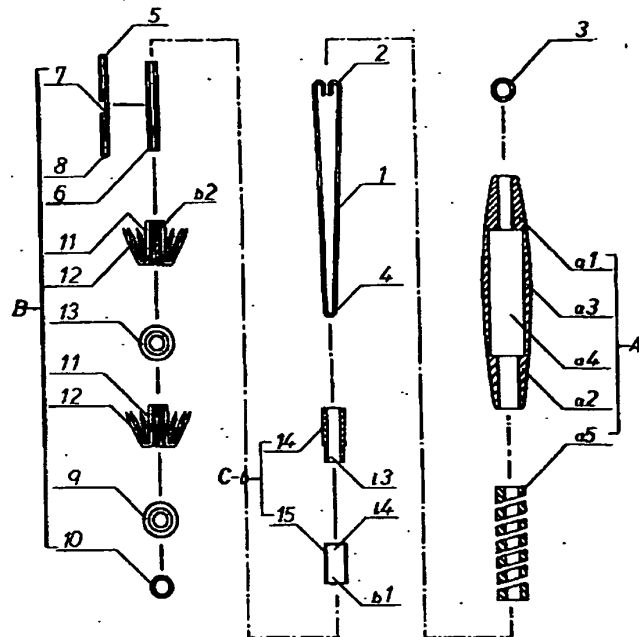
【図17】



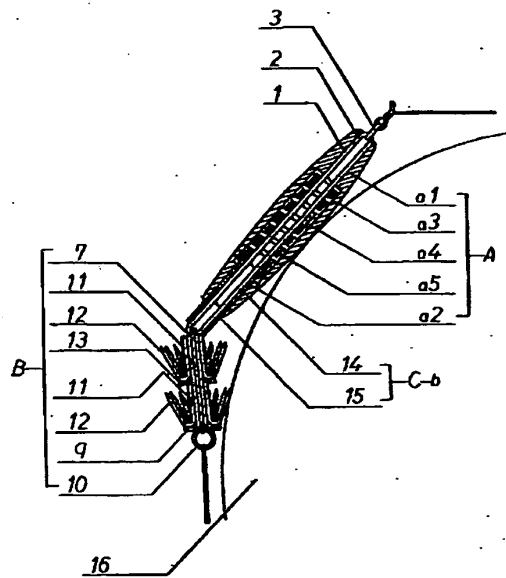
【図18】



【図19】



【図20】



【手続補正書】

【提出日】平成11年6月21日(1999. 6. 2

【補正対象項目名】全図

1)

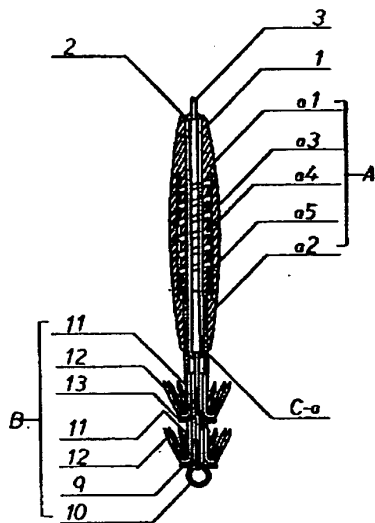
【補正方法】変更

【手続補正1】

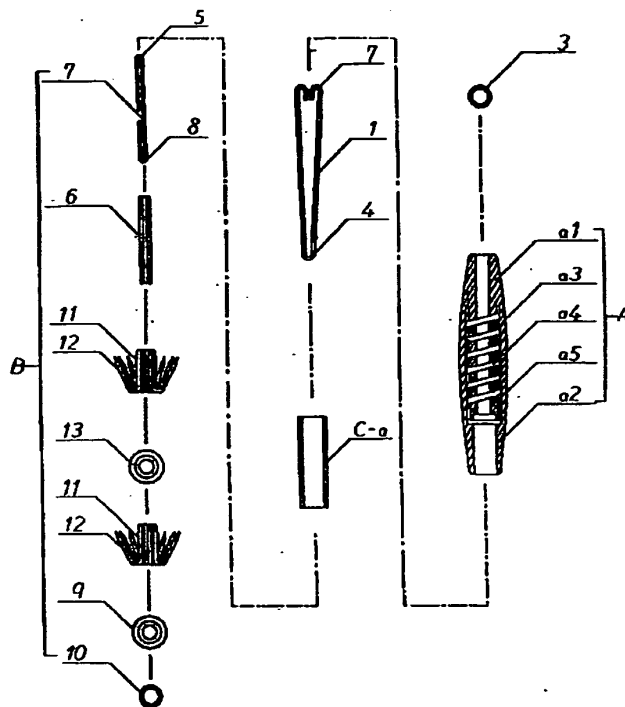
【補正内容】

【補正対象書類名】図面

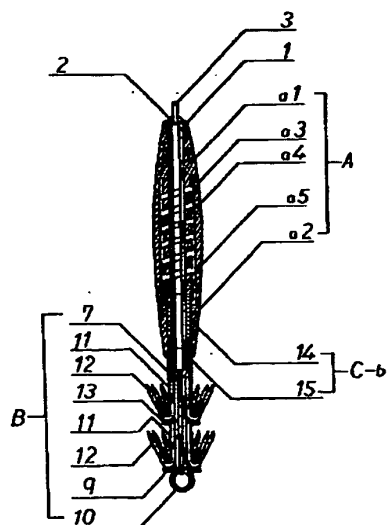
【図 1】



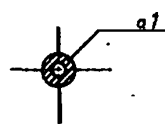
【図 2】



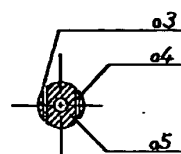
【図 3】



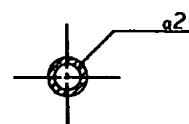
【図 6】



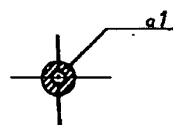
【図 7】



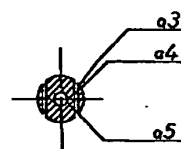
【図 8】



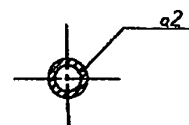
【図13】



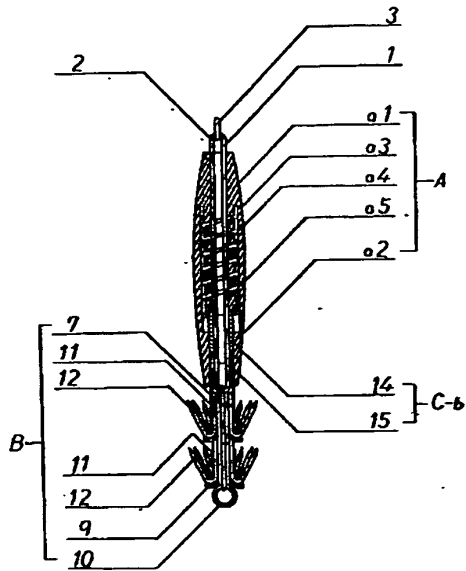
【図14】



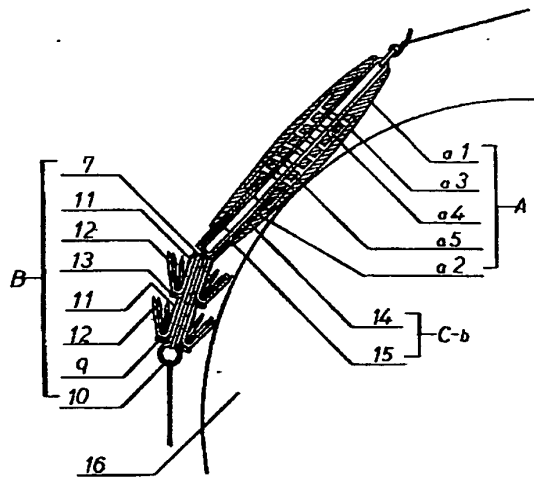
【図15】



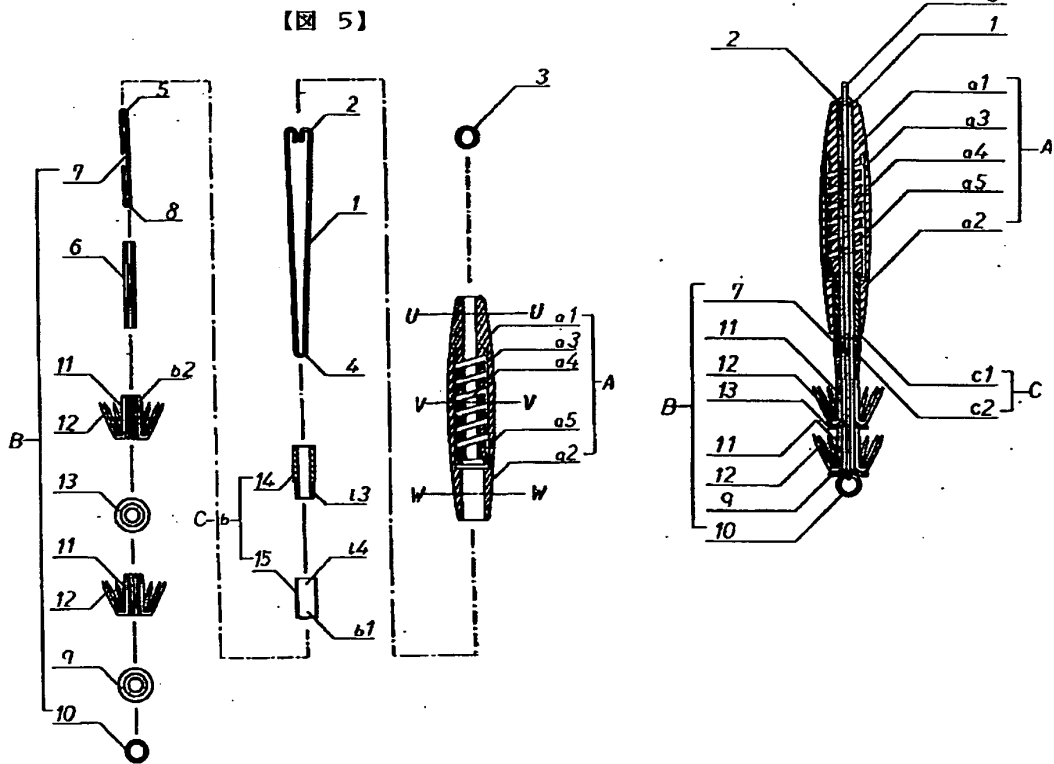
【図 4】



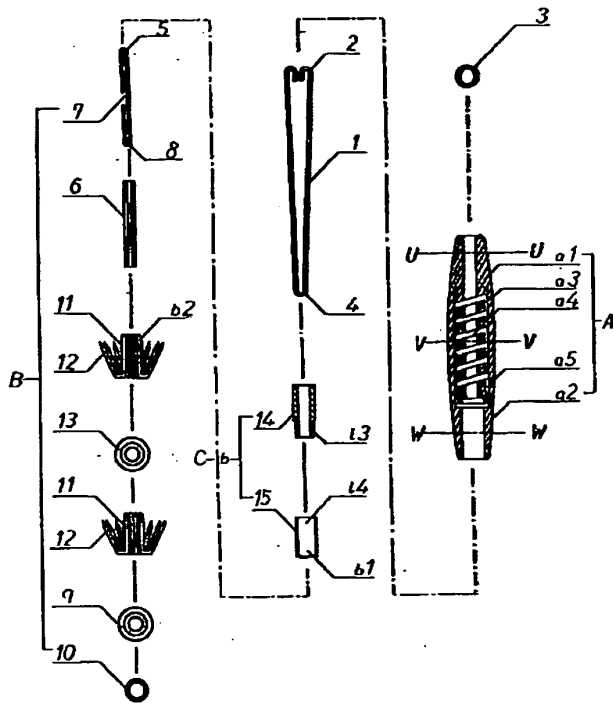
【図 9】



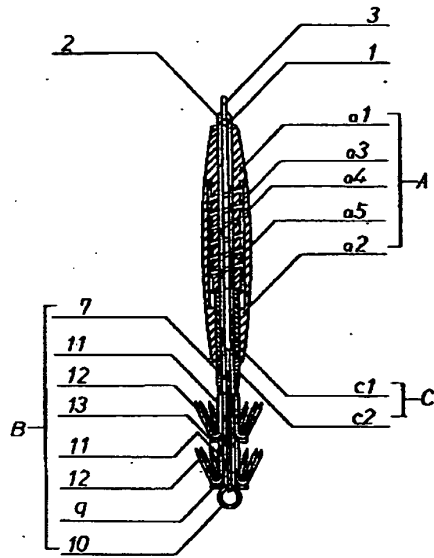
【図10】



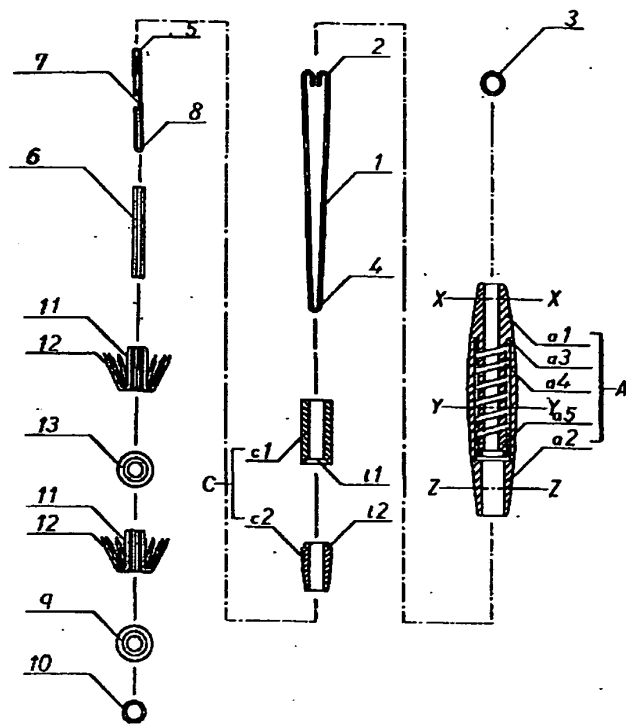
【図 5】



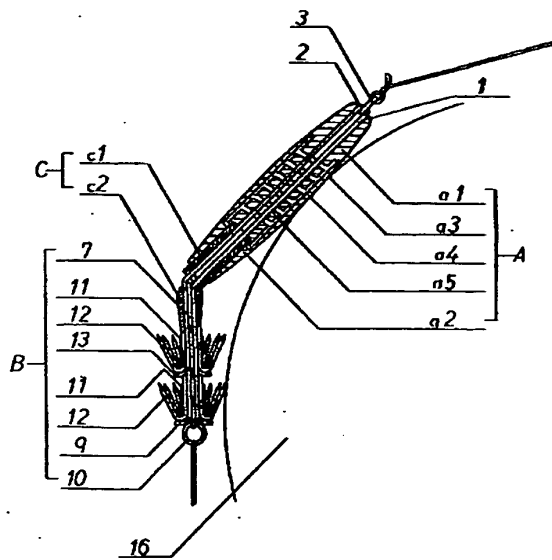
【図11】



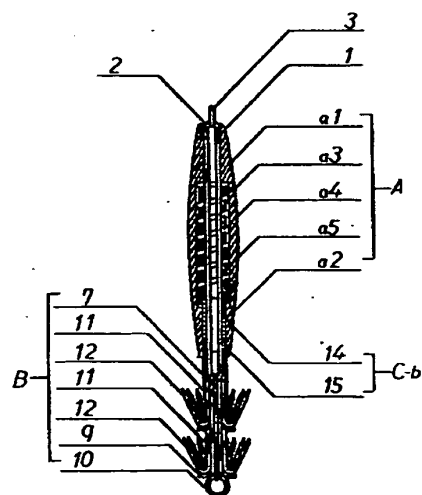
【図12】



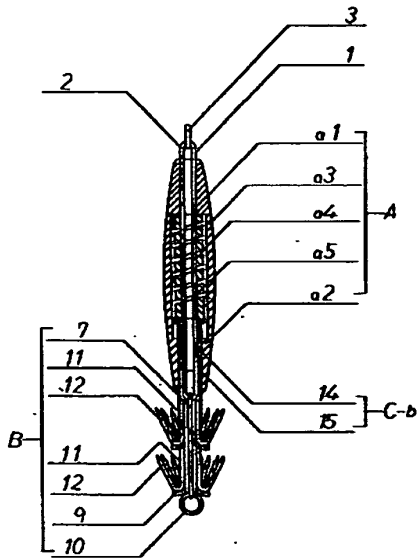
【図16】



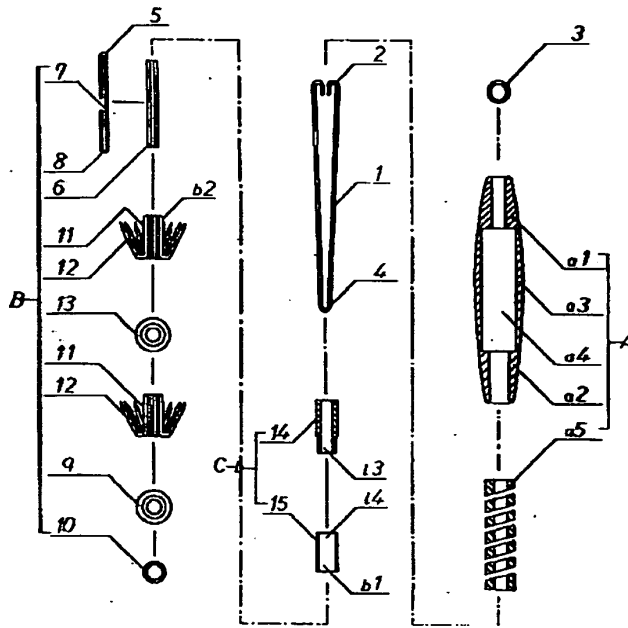
【図17】



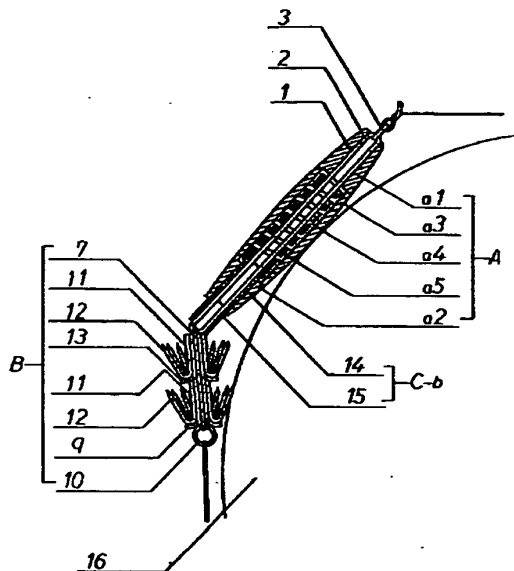
【図18】



【図19】



【図20】



PAT-NO: JP02000236780A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000236780 A
TITLE: LURE FOR CUTTLEFISH HOOK AND HOOK USING THE
SAME
PUBN-DATE: September 5, 2000

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ASARI, SEN	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ASARI KENKYUSHO:KK	N/A

APPL-NO: JP11084449

APPL-DATE: February 22, 1999

INT-CL (IPC): A01K085/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a lure for cuttlefish hook requiring no much labor for making it, easily assemblable/disassemblable one-handedly and highly operable in mechanical fishing as well, and also remarkable for cuttlefish by forming a hollow chamber at the center and suspending a specific helical spring into the chamber.

SOLUTION: This lure for cuttlefish hook is obtained by forming a hollow chamber a4 at the center through connecting an upper end cylindrical portion a1 of synthetic resin with a lower end cylindrical portion a2 of synthetic resin via a plurality of columnar portions a3 of synthetic resin, then by suspending a helical spring a5 of synthetic resin integratedly from the lower

end of the
upper end cylindrical part a1 into the hollow chamber a4;
alternatively, by
forming a hollow chamber a4 similarly followed by inserting a helical
spring a5
of synthetic resin into the hollow chamber a4.

COPYRIGHT: (C)2000, JPO

DERWENT-ACC-NO: 2000-584085

DERWENT-WEEK: 200055

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Artificial bait body for squid fish hook, has
spiral spring which is extended from the upper edge
tubular section to the lower end tubular section and
which is suspended in the chamber

PATENT-ASSIGNEE: ASARI KENKYUSHO KK[ASARN]

PRIORITY-DATA: 1999JP-0084449 (February 22, 1999)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 2000236780 A	September 5, 2000	N/A
015 A01K 085/00		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP2000236780A	N/A	1999JP-0084449
February 22, 1999		

INT-CL (IPC): A01K085/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2000236780A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - The artificial bait body (A) includes an upper edge tubular section (a1), a lower end tubular section (a2), and a pillar section (a3) which are all made of plastics. A chamber (a4) is formed at the center of the artificial bait body. A spiral spring (a5) which is extended from the upper edge tubular section to the lower end tubular section is suspended in the chamber.

DETAILED DESCRIPTION - An INDEPENDENT CLAIM is also included for a squid fish

hook.

USE - For squid fish hook.

ADVANTAGE - Simplifies assembly and disassembly work of the spiral spring.

Increases fishing efficiency since the fishing line and the squid fish hook are not interwound. Reduces manufacturing time since manufacturing process is simplified. Prevents damaging the fish hook and the artificial bait body.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the traversing front elevation view of the artificial bait body.

Artificial bait body A

Upper edge tubular section a1

Lower end tubular section a2

Pillar section a3

Chamber a4

Spiral spring a5

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/20

TITLE-TERMS: ARTIFICIAL BAIT BODY SQUID FISH HOOK SPIRAL SPRING
EXTEND UPPER

EDGE TUBE SECTION LOWER END TUBE SECTION SUSPENSION
CHAMBER

DERWENT-CLASS: P14

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2000-432768